



こどもたちの園生活は、すっかり園舎内が主体となり、生活発表会へ向けてギア・チェンジしております。

こどもたちには、教師の話しを、しっかり聞く力が身についております。

そうして、れんじゅうの時は、先生に集中して取り組み、その時間が終わると弾けるようにあそぶ時間が待っております。

■ホールでは、ピアノの位置もジャングルジムの前に移動して、ホールは本格的な練習の場となりました。

発表会は、教育文化会館の小ホールを借りて行います。

雰囲気は全く違いますが、ピアノの位置、こどもたちの出入り、客席の位置などは同じになるのです。

効果がしっかりと出てくれることを願って取り組みます。

■しおりせいせいとまいせいせいのふたり、出産の為に産休に入りました。

出産予定日は、ふたりとも12月です。
たのしみです♥

■発表会は、特定の主役はいません。みんなが主役です!!

前に、発表会は、年少組と年中組は、一部に楽器、二部には劇の発表とお知らせしました。

楽器は、リズム楽器が主体です。種類も沢山、大きさと形もさまざまです。

日々の影響で、年長組は劇の発表だけとなります。

こどもたちひとりひとりは、担任から、リズム楽器は、これをねがいます!と。

劇は、この役をねがいます!と依頼され、ハリキッテおります。

そんなこどもたちひとりひとりの意気込みを大切にさせていただきます。**みんなが主役です!**



ママはサポーターに

(心の育ちシズ)

ママの安心子育て
うちだのふっこ先生
お茶の水女子大准教授

以前に、こどもには「図鑑型」と「物語型」の2タイプがあると話しました。

図鑑型の子は、お友達よりおどやなどの「どの」に興味を示す傾向があり、対する物語型の子は、お友達と付き合うのが得意です。親としては後者であって欲しいと願うかたはたくさん。
例えば公園で、「ほら! お友達のとこに行っておいで」と我が子をあそびの車輪に入れようとしたものの、グズで行かなかったと言っているではありませんか?

こんなふうに、図鑑型のお子さんは内気で繊細な傾向があり、お友達に自分の気持ちを言い表すことが上手ではありません。そんな時は、お母さんの出番です。
最初、みんなと離れて一人きりであそんでいたとして、やさしく見守ってあげましょう。

もしお友達が近寄り、きたら、「一緒にあそぶのが楽しいよ!」と声をかけたり、ほかの子の持ちものに興味を示しているようだったら、お母さんが人と関わるお手本を少しずつ見せてあげましょう。

考えてみてください。大人でも友達とワイワイとぎやかに付き合うのが好きな人といえば、静かに読書を好む人といえます。子どもも自分なりの人とのつき合い方を身につけていきますので、人見知りをマイナスイメージする必要はありません。

子どもの頃、「図鑑型」か「物語型」であったとしても、それは一時期のこと。成長に伴って気持ちの表し方や、感情のコントロールを学んでいく人は双方をバランス良く兼ね備えようになります。

成長するにつれ、子どもの関心が変わります。どんなことに興味を示すのかを見守り、こどもの関心を大事にしてあげてください。

自分はどうでしたか。恥づかがり屋でしたか? 社会で揉まれ、結婚して近所つき合いを経て、今ではすっかりつき合い上手になっているでしょう。

子どもが人見知りでも焦らず、お母さんは「サポーター」です!